

第五小学校改築基本設計 設計方針(案)

特徴を生かした配置・ゾーニングの考え方
設計方針(部位別)

※HPでの公開にあたり、一部の写真・図面を削除しています。

基本設計概要版 目次構成案

I コンセプト

1. 武蔵野市立第五小学校改築基本計画について

2. 第五小学校のコンセプトについて

第8回改築懇談会

3. 第五小の特徴を生かした配置・ゾーニングの考え方

4. 設計方針(部位別)

(1) 普通教室・オープンスペース

(2) 吹抜け

(3) テラス

(4) 手洗い、水飲み場

(5) トイレ

(6) 地域子ども館

(7) 地域連携・開放施設

(8) 避難所

第9回改築懇談会

5. 設計方針(全体)

(1) 避難経路

(2) 環境配慮

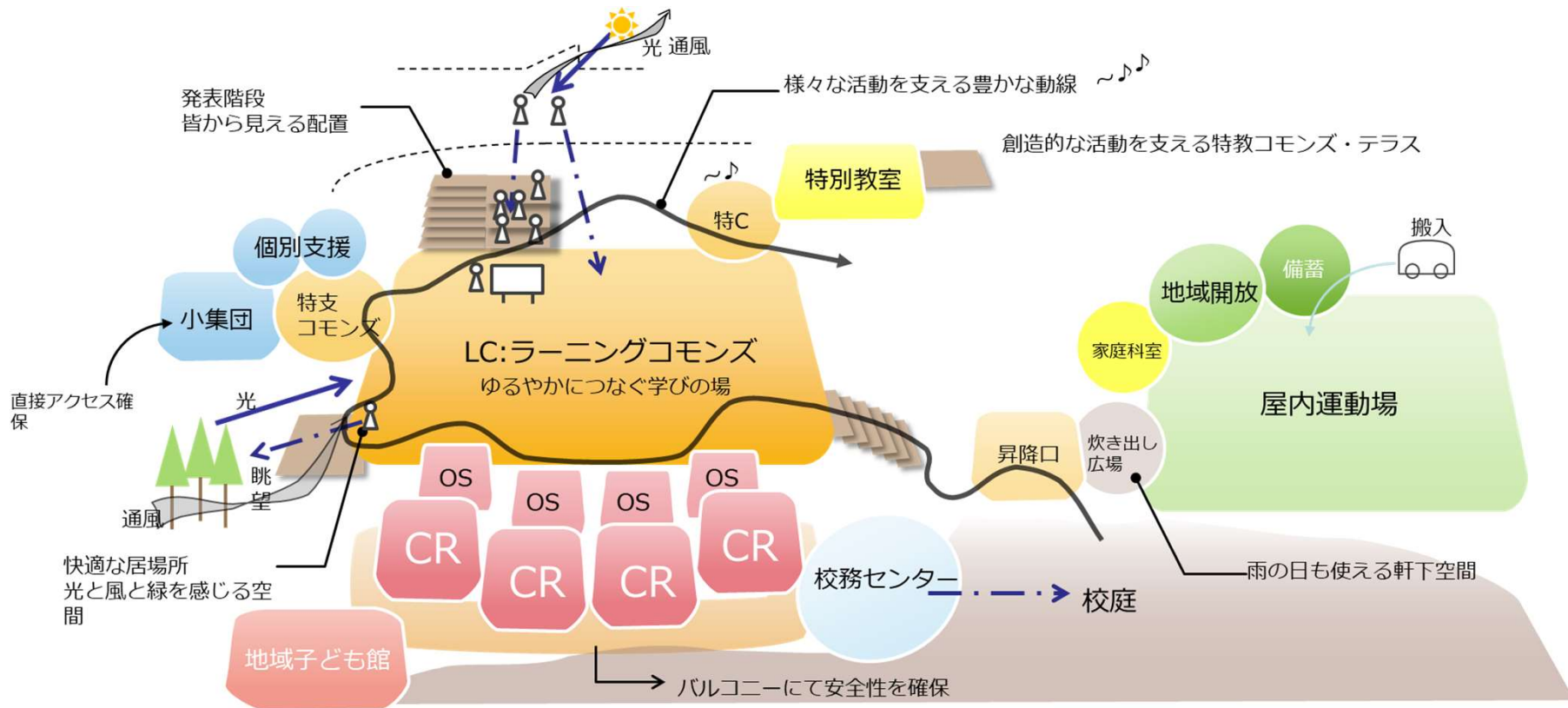
II 建築概要

第五小の特徴を生かした配置・ゾーニング

■ 第五小学校の基本方針

① 知・徳・体をバランスよく育み、未来にわたって自ら学び続ける力を育む施設

ゆるやかにつながる学びの場で、自然と生まれる興味・関心や多様な他者との出会いが、子どもたちの学び続けることへの意欲を培う施設を目指します。



第五小の特徴を生かした配置・ゾーニング

■ 第五小学校の基本方針

② 子どもたちの「元気」「本気」「根気」であふれる校風を、地域とともに支える施設

緑あふれる校庭や、可変性のある教室で「**元気**」に活動でき、吹抜けを通して見える異学年・他学級の学びから受ける刺激により児童の「**本気**」を引き出し、自分に合った居場所で「**根気**」よく学ぶことができる校舎を目指します。



イメージ写真

◀ 吹抜けから学びが見える

▼ ひとりで静かに過ごせる居場所



第五小の特徴を生かした配置・ゾーニング

■ 第五小学校の基本方針

③ 児童の自主性を育み、異学年交流の文化を継承する施設

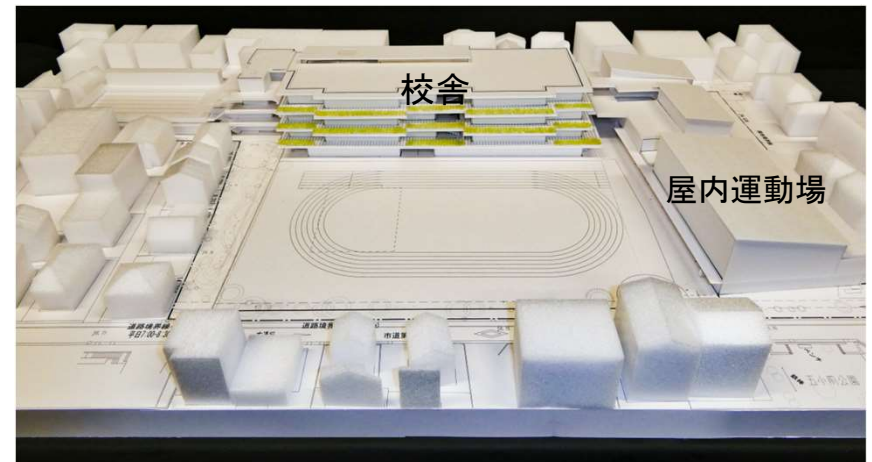
全体が見渡せる整形で死角のない校庭と、
他学年の児童の動きを見ながら自主的に行動できる、視線の通る校舎で
ノーチャイム文化と異学年交流を支える空間構成とします。



イメージ写真

◀ 他者の動きがよく見える校舎内

▼ 整形で死角のない校庭



第五小学校 イメージ模型

第五小の特徴を生かした配置・ゾーニング

■第五小の特徴を生かした整備方針

- 児童の自主性を育むため、ノーチャイム文化を引き継ぎ、生かせる空間構成を検討します。
- 児童の知的好奇心や探究心を育むため、伝統あるビオトープの保存に努めます。
- 緑豊かな環境を生かすため、ヒマラヤスギや桜を含む既存樹木の保存に努めます。
- 東西どちらの道路からもアクセスしやすい動線計画を検討します。
- 地域の魅力的な景観づくりと安全な歩行環境に寄与するため、五小通り沿いの整備を計画します。
- 多様な災害に備えて、ハザードマップの浸水想定にも対応した設えを検討します。

ビオトープの雑木林を想起させるような、多様な児童の豊かな居場所づくりを目指します



(第五小学校改築基本計画より抜粋)

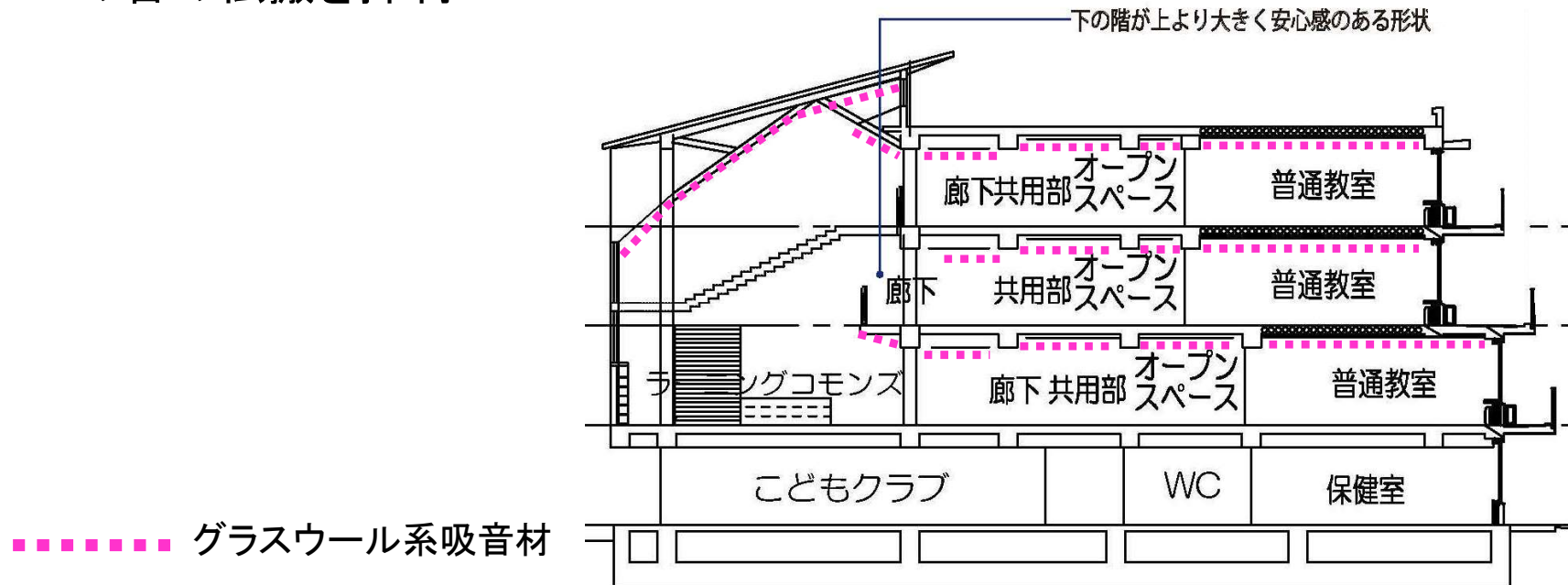
(2) 吹抜け

① 安全性

- 児童の重心よりも高く(1.4m程度)、足掛かりのない手すりを設置
- 机、椅子など足掛かりのある場所は、天井までのガラスやルーバー等で落下防止
- 下階を広げる安心感のある形状

② 音環境

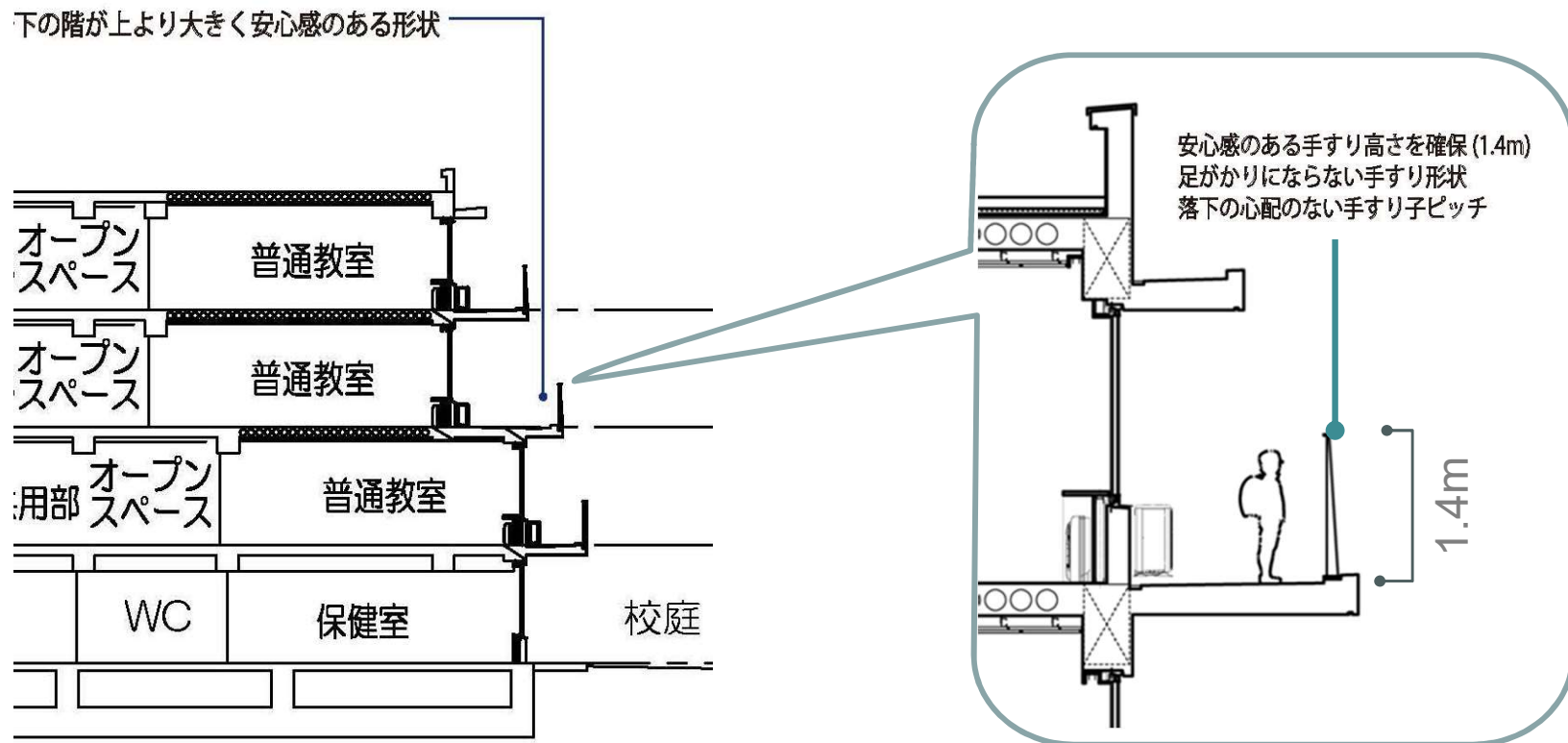
- 吹抜け、廊下、共用部等の天井に適切に吸音材を使用し、吹抜け以外の場所への音の伝搬を抑制



(3) テラス

① 安全性

- 児童の重心よりも高く(1.4m程度)、足掛かりにならない手すりを設置
- 下階のテラスを大きくする段々形状で、安心感を持たせる



(3) テラス

② 手洗い

- ・テラスにも水回りを整備し、植物の育成に活用しやすい計画

(4) 手洗い、水飲み場

① 位置、個数

- 各教室からアクセスのよい位置に分散して配置
- 混雑を回避できる水栓数を検討

② 仕様

- レバーハンドルと水飲み対応の水栓

(5) トイレ

① 位置

- 1階には、教職員・来客用トイレ、地域開放用トイレ、地域子ども館用トイレ、校庭用トイレをそれぞれ計画
- 2階以上の各階には校舎の南北に1か所ずつ、男女別トイレを設置
- 各階に車いす利用者だけでなく、男女関係なく使用できるバリアフリートイレを設置

② 仕様

- 入り口は、ドアを設けず中が見えない計画とし、ドアノブの接触による感染防止を図る
- 手洗いは自動水栓とし、接触による感染防止を図る
- 教育上の観点から、校舎内に和便器を男女1基ずつ設置し、その他は洋便器とする

(6) 地域子ども館

① 室配置の考え方

- 地域子ども館へは、学校敷地外に出ることなくアクセスできる動線
- こどもクラブの育成室数は、最新(令和4年度)の人口推計に基づく想定最大入所者数から算定(1育成室あたり35~40人程度の想定)
- 管理スペースとして、事務室、更衣室兼休憩室、キッチンを設置
- 各育成室内に児童用のクールダウンスペースを設置

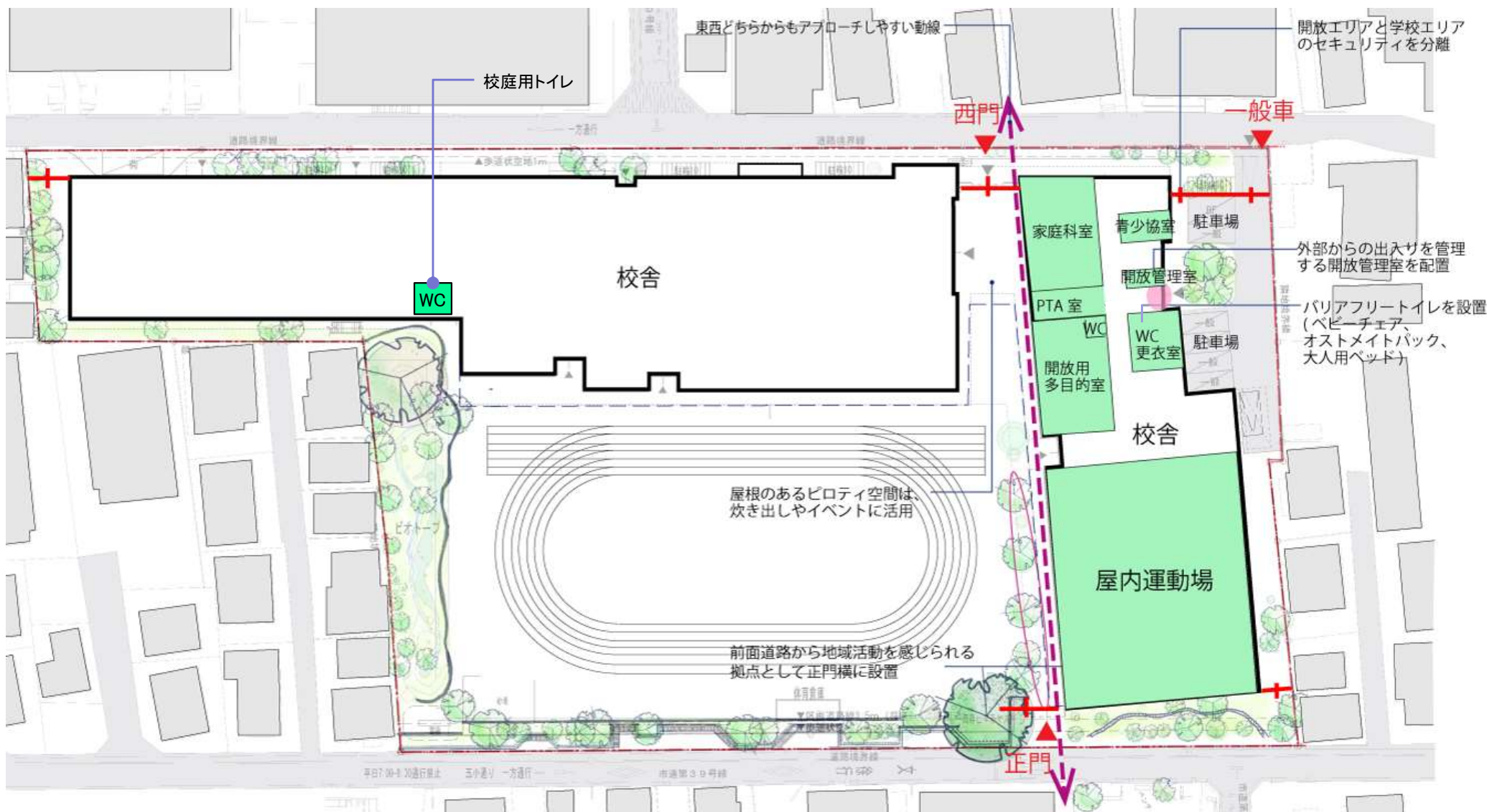
② 水回り計画

- 地域子ども館のエリア内にトイレを設置(こどもクラブ、あそべえ共用)
- こどもクラブの各育成室に手洗い場を設置(1か所につき4口程度)

③ セキュリティの考え方

- 外部からの出入り口を単独で設け、学校との管理区分を明確に分離
- 校舎の学校エリア内を通らずに校庭や屋内運動場に出入りできる動線計画
- 学校110番等の通報システム、機械警備を設置

(7) 地域連携・開放施設



(7) 地域連携・開放施設

① 室配置の考え方

- 地域開放諸室(屋内運動場、開放用多目的室、PTA室、青少協室)は1階にまとめて配置
- 外部からの出入り口には開放管理室を設けて、学校との管理区分を明確に分離

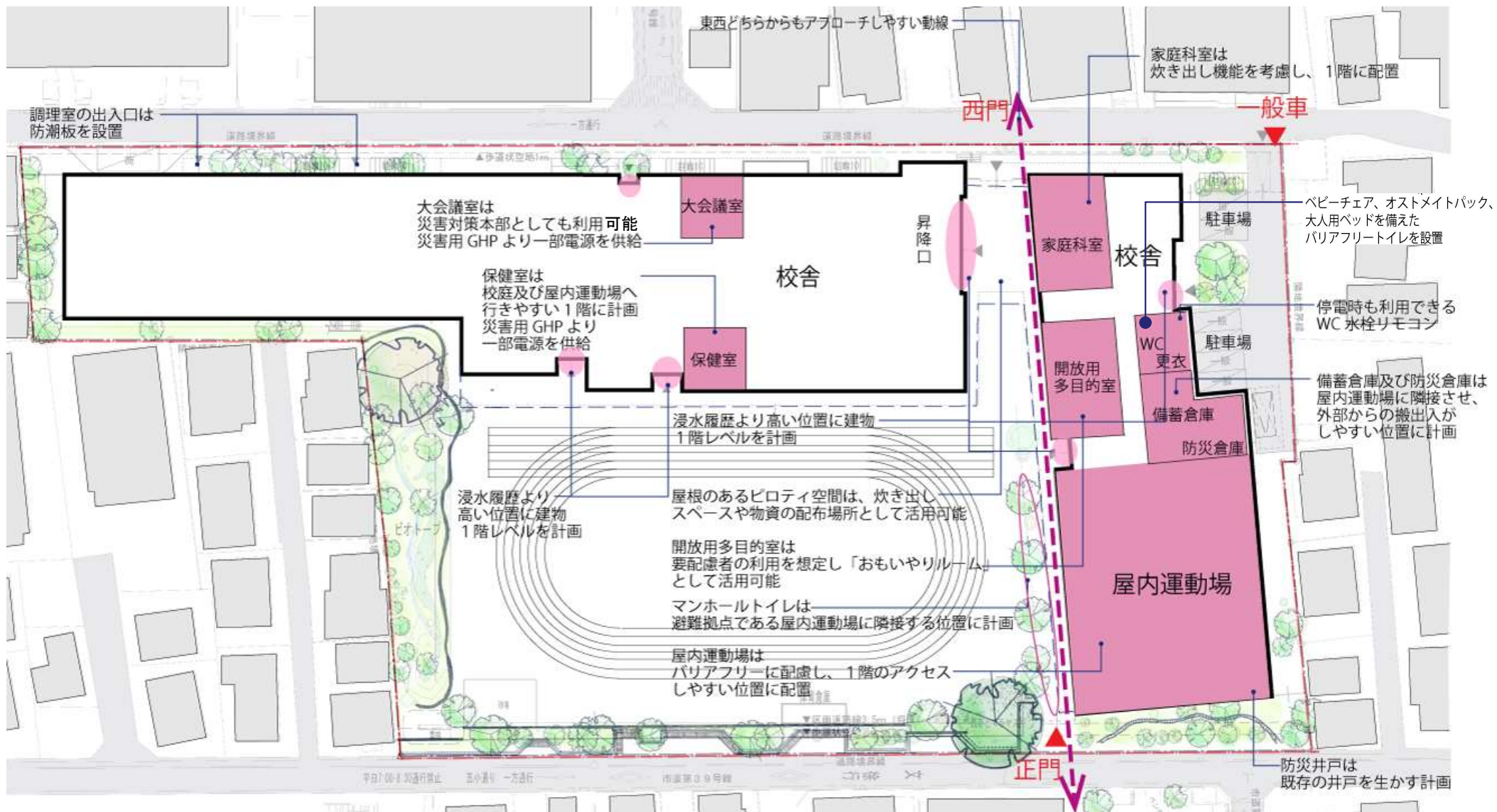
② 設備配置の考え方

- 開放エリア内に大人用ベッドやオストメイトパックを備えたバリアフリートイレを設置
- 校庭開放時に使用できる校庭用トイレを設置

③ セキュリティの考え方

- 開放エリアから学校エリアに侵入できないようセキュリティを分離

(8) 避難所



(8) 避難所

① 室配置の考え方

- 避難所となる屋内運動場は、バリアフリーに配慮した1階のアクセスしやすい位置
- 防災倉庫及び備蓄倉庫は屋内運動場に隣接
- 屋内運動場に近接してマンホールトイレを配置
- 家庭科室は炊き出しを想定し1階に配置
- 屋外での炊き出しや、ペットの避難スペースとしても利用可能な、屋根付き駐輪場やピロティなどの半屋外空間を配置
- オストメイトパックや大人用ベッドを備えたバリアフリートイレを避難所エリアに計画

② 停電時の考え方

- 自立運転機能付き太陽光発電設備を導入し、避難所エリアへ電源供給
- 災害対応GHP(ガス空調)を設置し、避難所エリア(屋内運動場、家庭科室、開放用多目的室、大会議室)の空調及び発電に対応
- 避難所エリアのトイレは、停電時も流すことができる自己発電式の水栓リモコンを採用

(8) 避難所

③ 断水時の考え方

- ・下水道直結トイレ(マンホールトイレ)10台(うち2台は車いす対応)を屋内運動場からアクセスのよい位置に設置
- ・マンホールトイレ近傍に雨水貯留槽を設け、人力で動かすことができ、運ぶことのできるポンプにより一定時間ごとに水を流すことのできる設えを検討
- ・既存の防災井戸を活用

④ 通信、ネットワークの考え方

- ・MCA無線を新校舎に移設
- ・NTT災害用特設公衆電話(5台)を新校舎に移設
※位置については防災課と協議の上決定する